

(地Ⅲ121F)

平成28年9月5日

都道府県医師会

感染症危機管理担当理事 殿

日本医師会感染症危機管理対策室長

釜 范 敏

クリミア・コンゴ出血熱に係る注意喚起について

今般、スペインの首都マドリッドにおいて、西ヨーロッパでの最初の国内感染例と考えられるクリミア・コンゴ出血熱の発生が確認され、改めて海外渡航者に対する注意喚起を行っていることから、厚生労働省より別添のとおり本会宛周知方依頼がありました。

クリミア・コンゴ出血熱は、ウイルスを有するマダニに咬まれることや、ウイルスに感染した動物や人の血液等に接触することを通して感染することが知られており、わが国においては感染症法で一類感染症に分類されています。

本件は、スペインでの今後の感染拡大の可能性は低いと想定されるものの、スペインを含めた発生地域に渡航された方が、医療機関を受診した場合は、クリミア・コンゴ出血熱を念頭に置いた診療を行うよう求めるものであります。

つきましては、貴会におかれましても本件についてご了知のうえ、郡市区医師会、関係医療機関等に対する周知方について、ご高配のほどよろしくお願い申し上げます。

事 務 連 絡
平成 28 年 9 月 2 日

公益社団法人 日本医師会 御中

厚生労働省健康局結核感染症課

クリミア・コンゴ出血熱に係る注意喚起について

今般、スペインの首都マドリッドにおいてクリミア・コンゴ出血熱の発生が確認され、西ヨーロッパにおいて最初の国内感染例と考えられていることから、改めて海外渡航者に対し注意喚起を行っているところです。クリミア・コンゴ出血熱に関しては、ウイルスを有するマダニに咬まれること、ウイルスに感染した動物や人の血液等に接触することを通して感染することが知られています。

スペインでの今後の感染拡大の可能性は低いと想定されますが、スペインを含めた発生地域に渡航された方が、医療機関を受診された場合は、クリミア・コンゴ出血熱を念頭に置いた診療を行っていただきますようお願いいたします。

貴会会員への周知につきまして御配慮の程お願いします。

<クリミア・コンゴ出血熱について>

発生地域：中国西部、東南アジア、中央アジア、中東、ヨーロッパ、アフリカ。

感染経路：ウイルスを保有したマダニに咬まれたり、感染動物（特にヒツジなどの家畜）と接触したりして感染する。

主な症状：2～9日の潜伏期ののち、発熱、関節痛、発疹、紫斑（出血）、意識障害など。

感染予防：草の茂ったマダニの生息する場所に入る場合には、長袖、長ズボンを着用し、素足でのサンダル履き等は避ける。また、家畜などにむやみに触れない。

参考：クリミア・コンゴ出血熱について

<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000135514.html>